

平和にするために

できることは

小野 遙生

僕が広島派遣に参加したのは、平和にするためにできることを知りたいという思いがあったからです。

広島で最初に見たのは、人々に戦争と原爆の恐怖を訴え続けている原爆ドームです。写真では何度も目にしていきましたが、実際の姿を目の当たりにすると、改めて悲劇の象徴であると感じました。

被爆者の塩治さんからは、体験談を聞きました。失った人への悲しい思いや命の大切さ、核兵器への恐怖が伝わってきました。派遣のテーマである「平和のためにできることを知る」に対する答えは「互いに認め合い協力して世界を作ること」だと感じました。

今の日本は平和だと思いますが、世界のあちこちでは紛争などが起き、平和とは言いきれないのではないかと思います。貧富の差が争いをもたらすこともあるので、どう対処していくのかも平和への道だと思いました。

被爆者の今の気持ち

本野 綾人

僕は、被爆者の今の気持ちを知りたく、広島平和記念式典派遣事業に参加しました。

派遣期間中、特に印象に残っているのは、「原爆の子」の像です。原爆の子の像というのは、原爆病により12歳で入院した佐々木貞子さんが13歳で亡くなり、少年少女を慰めるために作られたものです。僕と同じくらいの人がたくさん亡くなったと思うと心が締め付けられます。

原爆は1945年8月6日に落とされました。広島に無き多くの人々から命を奪ったのです。原爆が落とされた日、被爆体験を話してくれた塩治さんは、崩れてきた瓦礫に閉じ込められました。しかし、お母さんが助けてくれたお陰で生きることができました。この事実を広島で見て、聞いて学ぶと改めて戦争は恐ろしいと思いました。

広島に行ったことで、戦争の怖さ、平和のありがたみを学ぶことができました。

世界平和を目指して

恩田 菖

私が広島平和記念式典派遣事業に参加しようと思った理由は、学校での折り鶴集会などで戦争について学び、自分の目で被爆地となった広島を見たり、原爆の資料などを見て戦争についてもっと知りたかったからです。

広島に着くと、まず原爆ドームの見学を行いました。自分の目で見ると写真とは異なり、壁が想像よりはがれていて、原子爆弾の恐ろしさを感じました。

式典では、「平和について考える場所」「平和を誓う場所」「未来を考える場所」であるのを感じ、未来の人に戦争の体験は不要だけど、戦争が起きた事実を正しく学ぶことは必要だと思いました。

今回の派遣に参加して、戦争の悲惨さを改めて感じることでできたのと同時に、「みんなが世界の平和を願っている」という気持ちが伝わってきた。僕は、いつかは平和な世界になる日がやってくる」と思いました。

被爆者の気持ちを考えて

松隈 翔馬

僕は、戦争について学ぶため広島平和記念式典派遣事業に参加しました。

式典では、平和のために核兵器の廃絶の決意を広島市長が述べた平和宣言を聞き、被爆者の悲しみや放射能の影響によりたくさんの人々が心身ともに苦しみを抱えたことを知り「平和についてもっと学びたい」と感じました。

広島では、被爆者の塩治節子さんからお話を聞くことができました。住んでいた町が爆音とともに変わり果て、家族や友人をなくした話。その話を聞いて原爆の怖さや原爆の影響で病気になる多くの人たちの辛さが伝わり、今までに無い悲しみを感じました。

今回の派遣で、戦争や原爆、放射能の怖さを知ることができました。世界平和は、世界の国々が協力し核兵器を廃絶できるように努力していくことが大切だと思いました。僕はこうした気持ちや思いを忘れないようにしていきます。

世界に平和が訪れるために

小定 結菜

皆さんは、戦争や原爆についてどう思いますか？私は二度と起こしてはいけないと思います。

私が広島派遣に参加したのは、原爆が落とされた日、人々や広島に何が起きたかを知りたかったからです。

広島では、語り部の塩治さんのお話を聞きました。身近に存在している大切な人や仲間が、原爆が落とされたことにより奪われたということ。どれほど悲しかったことでしょうか。そして戦争は、大切な人を奪うだけでなく人々の心も奪ったことを知りました。

戦争が起きたことにより、罪の無いたくさんの方が亡くなりました。あの悲しみ、苦しみを二度と起こしてはいけません。世界の平和を作るためには、私たちが常に平和な心であることが必要だと思えます。これからの日本・世界が、過去・現在・未来を見つめ、世界が永遠に平和であり続けられるように。